



特集

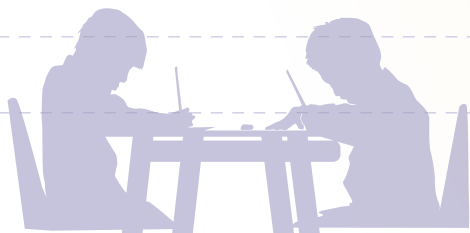
「小6 統一合判」²

中学入試レポート vol.

わが子にあった 中高一貫校を 見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

6年生になって、いよいよ本格的な受験勉強に取り組みはじめた受験生のみなさんは、夏休みを前にさまざまな課題を感じていることだろう。同時に保護者の皆さんは、わが子の受験校を考えていくうえでの大切な時期を迎えた。この6年生の大事な時期に、保護者の皆さんはお子さんの生活リズムを良い形でサポートしてあげるのと同時に、お子さんにとってベストの受験校選択をしていくためにも、これから先ぜひ多くの私学を見学に行ってほしい。とくに今年は、2年後の「2020年大学入試改革」とその先の社会の変化を見据えて、“日本の学校教育を変える”改革が、いくつもの私学で進行している。変化の激しい21世紀の社会に生きるわが子のために、そうした変化にも目を向けていただきたい。



首都圏模試センター

21世紀の教育改革の方向性をリードする 「私立中高一貫校の進化」に注目しよう！

今春4月15日（日）に実施された今年度の新小6「統一合判」第1回の同レポートでは、「2018入試結果から探る、2019年首都圏中学入試展望」と題して、今春の中学入試のトピックと、それらの動向から読み取れる保護者の意識の変化、そして「2020年大学入試改革」に象徴される、今後の日本の教育の変化について言及した。この模試を受験して同レポートをご覧いただいた方のなかには、こうした動きをすでに意識されている保護者も多いことだろう。

2015年の入試後から今春2018年にかけての3年あまり、教育と受験の世界では、この「2020年大学入試改革」をめぐる議論がひとつの焦点となった。世界トップ200大学と肩を並べるための、「SGU（スーパーグローバル大学）」（トップ型13校・グローバル化けん引型24校）の指定や補助金制度、それににつながる「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」指定、「日本語IB（国際バカロレア）プログラム」導入などの動きに象徴される“グローバル教育”推進の動き、さらに文部科学省が推進を図る「アクティブラーニング（能動的学習）」に関する議論は、この3年間の教育をめぐる話題の中心であった。

何より現在の小学生にとって大事なことは、①これまでの共通テストであった「大学入試センター試験」が、「大学入学共通テスト」という新たなテストに変わり、そこでは「思考力・判断力・表現力」が問われるようになること、②各大学が行う個別入試では、大学が個性化を図り、「主体性・多様性・協働性」や「創造性、独創性、芸術性」までを問う出題がされること、③英語では民間の英語検定のスコアが判定材料として導入されることなどの、極めて大きな変化があるということだ。英語の民間検定の「大学入学共通テスト」導入については、2020年から2023年までの当初4年間は、現行の英語試験と併用の形が取られることが公表されているが、現在の小学6年生が大学入試に挑むのは2024年。つまり民間検定導入の完全実施の最初の学年にあたるということだ。

そしてそうした段階的な入試改革の方向性が明示される以前に、東大や京大で「推薦入試」「特色入試」が導入されたことや、いくつかの国公立大学や私立大学ですでに英語の民間検定のスコアが判定材料にされ始めたことなど、そうした今後の入試改革の方向性を先取りして、入試問題そのものを「思考力・判断力・表現力」を問うものに変化させている大学が増えつつあることは見逃せない。つまり「すでに大学入試は変わりつつある」ということだ。

とりわけ「4技能（読む・書く・話す・聞く）」の力を試すために、民間の検定資格試験を導入する英語については、すでに2016年～2018年の大学入試でも、導入する大学が増加し続けている。

そうした動きの延長から、現在の小6のお子さんが大学入試を迎える2024年には、新たな大学入試制度も5年目を迎え、2020年の導入当初よりも、かなり進んだものになるだろう。

現在の「大学入試センター試験」に変わる2種類のテストが、やがては「CBT方式」で実施され、それが「AI（人工知能）採点」されるという方向性や、従来の「教科型」に加えて、教科・科目の枠を超えた思考力・判断力・表現力を評価するための「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせた出題がされることなども、その段階までには実現している可能性が十分にある。

そして何より、各大学の「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」につながる「アドミッションポリシー」を反映した個別入試問題では、いわゆる「批判的・創造的思考」までを問うユニークな出題がされることが予想できる。



今年春1月10日に訪れた東大の入試風景。6千3百人以上の受験生が行われた。



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～



訪りの今春2月1日に行われた校蔭
詰り入試風景。マスクの緊張感も多く

言い換えれば、そうした個別入試の出題では、各大学のアドミッションポリシーや、将来の社会で求められる力を反映した「正解がひとつに定まらない問題」「オープンエンドの問い」ともいえる問題が増えてくることになる。

そして、今春2018年の中学入試に挑んだ受験生と保護者は、ほぼ3年間にわたって、そうした議論や報道の渦中で受験準備をしつつ、志望校を検討してきた学年だった。さらに来春2019年の中学入試に挑もうとしている現在の小6のお子さんと保護者は、その変化の真っ只中で、この先の大学入試や社会の変化を具体的に見通しつつ、わが子の中高6年間の教育環境（受験～進学先）を探していく必要がある。

そういう保護者の教育と学校選びに関する情報収集のアンテナと見識が「わが子に合った中高一貫校を見つけるための」大きなポイントになるといってもよいだろう。

そして、何より現在の小学生と保護者にとっての本質的な問題は、目先の大学入試制度や入試形態の変更や時期にあるわけではない。

この新たな大学入試制度が導入される目的は、この先のグローバルな世界・社会で生きていくために求められる課題発見・問題解決の力を育てるためであり、その改革のベースにある理念は、従来の高校教育や大学入試（＝日本の教育）で重視されてきた知識習得型の学力観・教育観そのものを大きく変革しようとするものでもある。

だからこそ、この日本の教育の変化の節目に、「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」ともいわれる新たな学びのスタイルや探究型のプログラムが注目され、いま多くの私立中高一貫校が一斉に取

り組み始めていることに目を向けたい。

そうした教育の新たなムーブメントも各ご家庭で意識しながら、保護者が大切にしている価値観に合った学校、そして何より「わが子が生き生きと楽しく学べて、将来に向けた学力も身につけ、その過程でかけがいのない自分の価値と可能性に気づき、自己肯定観も高められる私学」を探していけるとよいだろう。そのためにこそ、最新の学校情報・入試情報が必要になるのである。

2019年にも「私立中入試の多様化」は進み、「思考・表現・発想」力を問う入試形態が増加。

2016年から今春2018年にかけての首都圏中学入試のシーズンに、新聞やTVなどのマスコミが最も注目したのが「私立中入試の多様化」の動きであった。

従来から主流であった国・算・社・理の4科目や国・算の2科目による入試に加え、今春の私立中学入試では、新たな入試科目や入試形態を導入する私立中がますます増加し、多様化の動きが拡大されたのである。

この動きは、すでに首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城）では24校が設立された公立中高一貫校の受験生（約1万8千名）が、少しでも私立中の併願がしやすいようにという狙いで私立中でも導入された「適性検査型入試」の増加がきっかけでもあった。

中学入試でも「思考力や表現力」を問いたいという私立中側の意図と受験生・保護者へのメッセージを反映したものが、この2～3年で急速に増加した多様な入試形態だと考えてよい。

その新たな入試形態・科目が、先の「適性検査型（公立一貫校対応型）入試」に加え、「英語（選択）入試」、「思考力入試」、「記述・論述型入試」「総合（合科）型入試」「自己アピール（プレゼンテーション型）入試」といった多様な「新タイプ入試」だった。さらには受験生の学力特性（強み）を生かして受験できる「得意科目選択型入試」や「推薦入試」などの入試形態も増加しつつある。

そして今春2018年入試では、首都圏で「112

校が英語（選択）入試を実施」、「136校が適性検査（思考力入試などを含む）型入試を実施」するまでに至っている。

さらに来春2019年入試に向けては、16ページのコラムでもご紹介したように、さらに15校以上（6月初旬現在調べ）が、新たな入試の導入を公表～検討している。

中学入試段階では未完であっても、将来的には無限の可能性を持つ小学生の新たな資質や才能、自ら学び進む意志力などを持つ多様な子どもたちを迎え入れようと決意した先進的な私学が、自らの教育改革と合わせて、これまでとは違った“多様な評価軸”で小学生の力を測る新タイプ入試を次々に新設するようになったのである。

こうした動きは、たとえば小6になってからなど、比較的遅い時期から中学受験や私立中高一貫校への進学を志した小学生と保護者にとって、新たな進路の選択肢が増えたという意味で歓迎されることになった。

こうした様々な動きのなかで、わが子にとっての最適な進路（学校）を選び抜くポイントとして、この「日本の教育が変わる」節目に、各私学がどのような教育をめざし、わが子が将来の社会でより良く生きていくための力を、どのように育ててくれるのかという点に着目すべきだろう。

**私学は絶えず進化し、成長する。
 その教育の“現在”と“未来”のあり方を
 保護者が自身の目で確かめたい！**

そして、そうした私学の教育が、各家庭の価値観や、保護者がわが子に望むことにフィットするかどうかは、やはり保護者が自分で各私学に足を運び、直接その学校の先生から話を聞き、校内の雰囲気や在校生の様子を自分の目で見て確かめるしかない。

そういう意味では、（わが子にとっての）良い学校を探し出すには、「なるべく多くの学校に足を運ぶ」ことが最大のポイントになる。

しかも現在では、そうして学校見学や説明会に出かける候補校を探すための予備情報は、各私学の公式Webサイトや、受験関係のWebサイト

から容易に探し出せるようになっている。一度、じっくりと時間をかけて、いろいろな私立中高一貫校のWebサイトを見てみると、いまでは多くの私学で、かなり多様な学校生活の側面や、教育内容の深いところまで紹介されていることがわかるはずだ。

さらに最近では、従来から行われてきた説明会に加えて、オープン・キャンパス、体験授業、クラブ体験など、受験生自身が各私学の授業やクラブに参加することで、各私学の学校生活の雰囲気や肌で感じ、それを保護者も一緒に感じ取ることのできる機会が数多く用意されるようになっている。

そして、この2～3年の間に人気を高めている私学は、ほぼ例外なく、こうした「体験授業（＝私学体験）」の機会を充実させている学校だといってもよい。

しかもそれらの機会は、夏休み前の時期から各校で盛んに実施されていて、最近では、夏休み中にも多くの学校見学と体験の機会が設けられるようになっている。そうした機会に、保護者が、あるいは親子で積極的に参加することで、多くの私学の特色や違いを感じ、その後の学校選びに生かせるようになる。

つまり、この7月以降、夏休みの期間にも、受験勉強のスケジュールを上手く調整して、親子で学校見学や体験授業など「私学に触れる機会」に出かけていただきたいのだ。

こうした機会に参加し、過去の評判や固定観念にとらわれることなく、「私学のいま（現在）」と「私学の進化（未来）」を知り、最新の「私学の入試コンセプト（＝アドミッションポリシー）」や入



今春1月22日に行われた渋谷教育学園の
 高1の第1回入試風景。相変わらず
 の高い人気と難易度になった！



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

学校説明会では、こんなことがわかる！

～何より私学の熱意と将来性を確かめよう～

これから夏休みや秋にかけて、私立・国立中高一貫校では、学校説明会やオープン・キャンパス（学校見学会）、体験授業など、受験生と保護者が「学校を知る（見る）」ことができる、さまざまな行事が行われる。各校で開催される文化祭、体育祭も、9月～11月にかけての時期がピークとなる。

わが子に合った学校を選び出すために、こういった学校見学の機会には、できるだけ数多く足を運んでいただきたい。それが「学校を選ぶ目」を確かなものにする方法のひとつだからだ。

そのなかでも、「学校説明会」は、やはり各学校の考え方や、具体的な指導内容を知るための良い機会だ。ここでは簡単にそのポイントをお伝えしておこう。

●私学の「説明会」で話される4つの柱

1. 「教育理念・教育方針」と「目標・将来展望」

～保護者の考えや期待と合うかどうか？

2. 「中高6年間の学習指導・カリキュラム」

～わが子の力をどう伸ばしてくれるか？

3. 「入試状況・出題傾向」

～どういう入試が行われるのか？ またそこではどういう力が問われるのか？

4. 「進路指導と進路状況（進学実績）」

～将来の進路に向けての指導内容・体制は？ またこれまでの進学実績と今後の期待値・目標値は？そして2年後に迫る「2020年大学入試改革」への対応をどのように考えているのかも注目すべきだろう。

私学の説明会では、一般的にこの4つを軸に話がある。いずれも各校の教育内容を見極めるうえでは非常に大切なこと。好印象を受けたことや疑問に思ったことは、しっかりメモに残して、最後に受験校を絞り込むときの参考にしよう。

そして、これらの話のなかで、いま注目したいのが、先に本文でも述べたような「2020年大学入試改革」への対応と、その先、現在の小学生が社会に出る新たな時代（2029年以降）の社会を各私学がどう読み解き、この日本の教育が変わる節目に、将来に向けてどういう力を生徒に身につけさせ、育てようとしているのかを確かめることだ。



今春2月1日に行われた麻布中の入試風景。個性的な出題に挑んでいく受験生の後ろ姿。

合わせて意識しておきたいのは、その話の内容や先生方の姿勢から、その学校の「熱意」や“将来性”を感じ取ることである。この点は、世間の評価や噂話からではなく、やはり「親が自分自身で確かめる」ことが大切だ。

また、これらの説明のあとに、「質疑応答・個別相談」や、「校内見学・授業見学」ができるケースも多い。わからないことはその場で遠慮なく質問してもいいし、あるいは後日、学校や塾に問い合わせて確認してかまわない。

また、こういった学校見学の機会を通じて、次のような点もチェックしておこう。

1. 受付や先生の対応は親切か？（学校の体質や先生方の熱意を確認！）
2. 在校生の服装や言動は？（学校の雰囲気、生活指導、しつけを確認！）
3. 施設や設備の充実度は？（華美でなくとも、生徒本位に工夫された環境かどうか？）
4. 防災対策（耐震等）や被災時のための備えは？（いざというときの安全性を確認！）
5. 学校までの利用交通機関と周辺環境は？（利便性、安全性を確認！）

とくにこの数年は、先の震災時の対応なども参考にし、その後の各校の防災、安全対策がどのようになっていくかも、保護者にとって確かめたいポイントのひとつになっている。

さらには「21世紀型スキル」ともいわれる「新たな時代に求められる力」を育てていくために、各私学がどのような授業スタイルや教育プログラムを導入しているのかも注目すべき点だろう。

試問題（＝そこで求められる力）を知ることは、学校選びの貴重なヒントや、今後の学習の指針を得ることにもつながる。お子さんにとっても、これから先の受験勉強の励みになる。

こうして、お子さんが挑む来春2019年入試に

向けて、できる限り「視野を広げ」、1校でも多くの私学に足を運んで「幅の広い」学校選択を心がけていただくことで、きっとお子さんにとっての「最良の進路（＝進学先）」を探し出すことができるはずだ。

最新入試情報

2019年入試での入試要項変更ほか〈抜粋〉

来春2019年入試でも加速的に増加する入試日程・科目の変更

■東京の出願開始日は1月10日

東京私立中学校の出願開始期日が変わる。
 (旧)平成30年度入試 平成30年 1月20日 以降→(新)平成31年度入試 平成31年 1月10日 以降。
 これまでどおり学校によって受付期間や受付方法は異なる。

----- 日程・科目 -----

■攻玉社、特選は算数のみに

国語(10名)または算数(20名)で行ってきた2月5日の特別選抜入試を、国語を廃止し算数1科(20名)に変更。これに伴い2日②の定員を70名から80名に。

■世田谷学園、1日午後1科入試新設

2月1日午後1科算数特選入試を新設。募集定員30名、うち特待20名。試験時間は60分とし、発表は翌日。また全日程で帰国生優遇措置を新設。

■大妻、第4回を2月5日に新設

新たに2月5日に第4回を設置(40名・4科)。①②の定員は20名ずつ減。また帰国生入試にも変更あり。

■大妻中野、新思考力と算数入試の日程見直し

新思考力入試を2月1日午前→4日午前、算数入試を2月3日午後→2月1日午後とする。

■鎌倉女学院、2次は3日

2次は2月4日から3日に移動(発表は4日)。2日の1次は当日発表とする。

■共立女子、2月3日午前午後の科目入れ替え

2018年の2月3日は午前合科型、午後インタラクティブ入試で行ったが、2019年は、午前インタラクティブ入試、午後合科型に入れ替え。また合科型のみ翌日発表、入学金納入期限を2月9日に延ばす。

■晃華学園、午後入試導入

2月1日午後入試(2科・30名)を加え3回入試に。15:00開始と16:00開始を設定。また4科入試①③の社理を、各35分各75点→各25分各50点とする。

■香蘭女学院、午後入試導入

2月2日午後入試(2科)を加え2回入試に。①も②も面接を行わず、全日程WEB出願のみに。また連続日程となるため①は当日発表。

■普連土学園、2月1日午後算数入試新設

2月1日午後入試を新設する(20名)。算数1科目で、試験問題は計算問題と一行文章題のみで構成(50分2点×50問)。1日午前定員は70名→50名。

■山脇学園、2月1日午後1科入試新設

2月1日午後入試(1科。国20名・算20名)新設。これに伴いABC各日程の定員も変更。英語入試は英検3級以上の資格必須で国算2科受験とする。

■清泉女学院、3期は3日午後

3期入試を2月3日午前から午後に変更。また3期の科目は4科に加え、国算英3科(英語は英検4級程度)、英語1科(グローバル入試。英検2級程度)から選択とする。グローバル入試は2期(1日午後)から移動。

■東洋英和、B日程は3日→2日に移動

2月3日が日曜日にあたる2019年は、B日程を2日に変更。AB連続日程に。B日程の発表、手続きも入試日程とともに一日前にスライド。

■横浜共立、B日程を4日に

B日程を3日(日)から4日に移動。発表は当日18:30。

■穎明館、2日午後入試新設

2月2日午後入試(2科。男女30名募集)新設。当日発表。これに伴い1日、2日の定員減。午前の各日程でインターナショナル入試を実施。

■日本大学中、1日午後を手厚く

2月1日午後は、A-2日程(国算、算英)と適性検査型で計65名募集とする(45名から増)。適性検査型は5日からの移動(5日Cは30名→20名)。A-1日程は4科のみとなり80名→70名。

----- 帰国生入試 -----

■海城、科目変更

[4科][算・総合][算・総合・英]から、2科[国語・算・英]に変更。英語は自由記述の作文。

■世田谷学園、帰国生優遇

全日程で帰国生に対し、加点の優遇措置を導入。

■大妻、帰国生入試は12月に日程変更

帰国生入試を1月から12月16日に前倒しし、科目も2科から、国算英のうち2科選択に変更。

■市川中学校、英語Ⅱは英検準1級程度に

12月帰国生入試(12月2日)、1月英語入試の英語Ⅱ(名称変更)は英検準1級程度とする。なお12月帰国は新たにListeningも実施する。

■成城学園、帰国生入試新設

帰国生入試を新設。1月9日、国算基礎学力+面接。

■東邦大東邦、帰国生入試を新設

12月1日に帰国生入試(英語選択型)を新設。募集定員は若干名(前期も含む)。国算英(各100点)を予定。同日実施の推薦入試に変更はない。

■西大和学園、シンガポール入試を実施へ

シンガポール入試の実施を決定。詳細検討中。

----- 2019年共学化・体制・校名変更 -----

■桐蔭学園、中等教育学校一本に

桐蔭学園は2019年4月より中学校男子部・女子部と中等教育学校を中等教育学校に一本化し男女共学、募集定員は大幅減。また算数選抜入試を2月3日に新設。

----- 制服・校舎・その他 -----

■工学院大附属 2019年4月より制服変更

■佐久長聖 2019年3月、高校新校舎完成

■桐光学園 今年度中に新グラウンド、新プール完成



受中今
 験験者
 の第1
 も月
 増回
 加20
 した日
 。に
 新幕
 設張
 メメ
 2ッ
 年セ
 目で
 行わ
 れた
 入試
 の市
 川



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

最新入試情報

2019年入試で新設～導入される新タイプ入試〈抜粋〉

来春2019年入試でも加速的に増加する“私立中入試の多様化” 最新情報そのほか

加速する入試の多様化。すでに10校以上が新たなタイプの入試を新設～導入へ！
来春2019年入試から新設・導入される新たな入試（6/5現在：首都圏模試センター調べ）は下記のようになっている。今後さらに増える可能性があり、注目しておく必要がある。

【新設／新タイプ入試】（6/12現在抜粋）

■聖学院、日程と入試名称に変更あり

ものづくり思考力入試を、2月2日午前から1日午後に変更。また2日午後「思考力+計算力入試」を「M型思考力入試」に名称変更。Metamorphose（変容）、Mathematics（数学）、Metacognition（メタ認知）のM。

■立教池袋、②に英語による自己アピール専用教室を追加

2月5日の②（AO）の国算+自己アピールは、これまで口頭による発表、芸術または運動関係の実技を伴う発表の3つの試験会場だったが、英語による自己アピールのための試験会場を別途設置。なお帰国生入試を含む全入試でWEB出願導入。

■共立第二、サイエンス入試を実施

理科実験とレポート作成、結果発表などを行う「サイエンス入試」を実施する。入試日は2月4日。その他、詳細は検討中。8月4日（土）に事前説明会・入試チャレンジを開催する。

■東京家政学院、アクティブラーニング入試を実施

2月10日に「アクティブラーニング入試」を実施（若干名）。適性検査Ⅲ（社会・理科の融合）、適性検査Ⅳ（理系総合問題）を題材にした授業および振り返りと発表による入試。日程も、2日午前後を廃止、6日→5日など見直しあり。

■桐朋女子、英語入試導入

2月1日午後、英語入試「Creative English入試」を導入（10名）。英語によるやりとりを含む。B入試は2日午後で、4科から2科4科選択とする。

■慶応湘南藤沢、定員変更と英語入試導入

2019年の定員変更（収容定員増、募集人員減）を正式に決定。横浜初等部生の内進初年度にあたる。一般募集は120名→70名。また国算英3科目選択可となる。帰国生30名募集は変わらず。

■埼玉平成、理科実験入試を新設

1月10日午後理科実験・観察による実技試験を導入する（10名）。また英語入試は1月10日午後と2月6日に実施する。

■自修館、1日に探求型を導入

2月1日のA①2科・4科に加え、「探求ⅡⅡ型」を追加。また5日に2科でD日程新設。

■八王子実践、大改革 Wonder Innovation

中学校の教育を刷新する教育改革がスタート。入試でも、適性検査型、自己表現型、英語から選択する受験スタイルで、国算2科または国算社理4科の入試は実施しない。

■目白研心、次世代スキル入試新設

一般入試、英語スピーチ入試に加え、「次世代スキル入試（適性検査対応型）」を新設する。入試日は2月1日午後。詳細は6月上旬に決定。英語スピーチ入試は2月2日、5日へ移動。

■武蔵野大学中学校

武蔵野女子学院中学校は共学化し、武蔵野大学中学校となる。グローバル&サイエンスを謳い、高校選択の自由も盛り込んでいる。今春より校長に就任した日野田直彦氏は、「普通の」府立高校を、海外大学合格者もでる学校に変革したことで知られる。入試は思考力入試、プレゼン入試含み5回設定。新体制初年度の入試は、2月1日午前（2科）、午後（国算社理英から2科）2月2日午前（算英から1科目）、午後（思考力）、4日（プレゼン）。

■目黒日本大学中学校・目黒日本大学高等学校

日出中学校・高等学校は昨年末に日本大学との準付属契約を締結。2019年から日本大学の準付属、目黒日本大学中学校・高等学校として、新たなスタートを切る。

■横浜富士見丘中学校、共学化

横浜富士見丘学園は今春より、中等教育学校から中学校・高等学校募集へ変更しており、来春には共学化。創立100周年に向け「21世紀型教育イノベーション」の推進を表明。

■三田国際、メディカルサイエンステクノロジークラス設置

メディカルサイエンステクノロジークラス（30名）を新設。2月3日午後、算理2科入試で募集する。これにより、本科クラス65名（前年90名）・インターナショナルクラス65名（前年70名）となる。

■明法、高等学校を共学化

学校法人明法学院は、明法高等学校を共学化。中学校は男子校、高校は共学校という体制に。

【中学校新設・開校】

以下、2019年4月に開校（予定、認可申請中含む）。

■ドルトン東京（東京都調布市）

日本で唯一「ドルトンプラン」の教育を実践する中高一貫校として、ドルトン東京学園中等部・高等部が開校。

■細田学園中学校（埼玉県志木市）

細田学園が中学校を開校。未来創造力、国際力・英語力、人間力育成を謳う。

■さいたま市立大宮国際中等教育学校（埼玉県さいたま市）

さいたま市立大宮西高等学校を、さいたま市立大宮国際中等教育学校に再編。首都圏の公立中高一貫校では初めて、「IB（国際バカロレア）MYP・DPプログラム」導入を申請予定で、「世界に飛躍するグローバル人材を育てる」ことを目指す。「適性検査」サンプル問題には英語も。

■広島県立広島観智学園中学校・高等学校

Hiroshima Global Academy（HGA：広島県豊田郡大崎上島町）大崎上島（おおさきかみじま）は竹原港からフェリーで約30分の瀬戸内海の島。そこに広島県立の全寮制の「IB（国際バカロレア）」校、広島県立広島観智学園中学校・高等学校が開校する。募集は40名で、県外在住でも受験可。1次検査（記述式検査・面接により、思考力・意欲を評価）、2次検査（2泊3日の合宿＝協働活動・面接・振り返り文作成等により、思考力・意欲・協働する力を評価）を行うとしている。国際バカロレアDP導入予定。

■大阪市立水都国際中学校・高等学校（大阪府住之江区）

全国初の公設民営による併設型中高一貫教育校、大阪市立水都国際中学校・高等学校が開校。大阪府が設置、運営管理は学校法人大阪YMCA。中学は80名募集。「IB（国際バカロレア）プログラム」MYP・DP日本語DP導入を予定。



来春2019年入試に向けて、大改革「Wonder Innovation」を打ち出している八王子実践中学校。

6年生にとっての、夏休みの上手な過ごし方！

～実現が可能な計画をつくり、自分が学習してきたことを振り返りながら前に進む～

●夏休みの課題や学習計画をつくるときに！

夏休みは、トータルすると40日間もまとまった勉強時間がとれる大切な時期。中学受験に成功した先輩たちの多くが、あとでその時期のことを振り返って、「よく頑張ったなあ…」とか「あんなに勉強した時期はほかになかった！」と口にするように、この夏休みの過ごし方や努力が、大きな意味を持つ。

そうしたなかで、上手な生活（＝受験勉強）のリズムをつくるコツは、なるべく「無理な計画を立てない」こと。あまり意気込んで、「あれも、これも…」と課題を増やし過ぎては、かえって逆効果。手を広げ過ぎず、実現可能な課題に順位づけをして、ひとつずつ、しっかりと取り組んでいく姿勢を大事にすることだ。

夏休みは、それまでに学習してきた知識や考える技法を使って問題演習に取り組むなど、まとまった時間を、そうした力を定着させるために使える貴重な時期。だからこそ、焦らず、欲張らず、実現可能な計画を立てて、毎日少し達成感を感じられるような学習リズムで過ごすことができるとうまいだろう。

ただ、意識しておきたいのは、単に「がんばる」とか「成績をあげる」といった意気込みだけでなく、どういう課題に、どのように取り組むのか、できるだけ具体的な目標を立てること。

また、そうした学習計画は、完璧にこなさなければいけないものではなく、そのときどきの状況によって見直しをして、変えていってもいいものと考えておくとよい。何よりこの夏休みの親の大事な役割は、子ども自身が、やる気や日々の達成感を少しずつでも自分で感じられるように接してあげることだろう。

一方で夏休みは、ふだんの学校生活ではできない自然体験や家族と一緒に過ごす時間が取れる大切な時期でもある。そうした体験はお子さんにとってもリフレッシュ効果も大きいので、うまく学習との切り替えとメリハリをつけられるよう親子で計画できるとよいだろう。

●塾での夏期講習で力を伸ばすには？

塾での6年生の夏期講習は、ある程度長い日数や時間をかけて、それまでに学習してきたことを、さまざまな演習問題に取り組むことを通して、自分で「使える力」として定着させることを狙いに行っているケースがほとんど。それだけに、夏期講習の開始までに、自分が苦手なところ、不得意なことは何かを明らかにしておきたい。そして、塾の夏期講習のテキストや資料を見て、この夏の間、いつ、ど



「ドルトン・プラン」による新たな教育環境を新設するドルトン東京学園。

のような分野・単元を学習するのか、あらかじめつかんでおく。そうすることで、自分の課題に沿った努力目標や、がんばるべきポイントもわかってくる。

次に、夏期講習の授業では、できれば前日までに、今回はどの単元を学ぶのかを確認したうえで、授業に臨めるとよいだろう。そして、これまでにその単元や範囲を学んだテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万端だ。

それは「予習」とは違って、これまでの自分の学びを振り返って、新たな課題に取り組む気持ちの準備を整えること。自分が学習で身につけてきたことや、まだ足りないことを、自分自身の課題として見つけることができるのも、長い夏休みならではの、メリットのひとつと考えておきたい。

また、夏休みの講習は、多くの場合、問題演習が中心になるために、子どもたちは、自分の解答が「マルか、バツか？」ということに気をとられがち。しかし、大切なのは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確かめておくこと。それが基礎・基本を確実なものにするために最も有効な学習方法だと考えておくとよいだろう。



グローバル教育に力を入れている海城中は帰国生入試の科目を変更する。